

対談 人形劇とごみ非常事態宣言!?



Ayumi Iio 飯尾歩
(中日新聞論説委員)

1960年、愛知県津島市生まれ。85年、中日新聞社入社、87年岐阜総局、94年生活部生活けいざい班、97年廃棄物キャンペーン「どうするごみ列島」取材班、99年東京本社「21世紀工房」などを経て、2002年3月から名古屋本社論説委員。環境と農業を主に担当。愛知環境賞選考委員。愛知県児童センター運営協議会委員長。NPO法人地球緑化センター理事。東海農政懇談会委員など。

愛知人形劇センター理事長・木村繁が東海地区の様々な識者を訪ね、人形劇はもとより表現活動や文化について幅広く語らう対談企画の第2弾。今回は、柔軟なお顔と裏腹(!?)、眼差し鋭い中日新聞論説委員・飯尾歩さんにイベント=出来事の仕掛け方をうかがった。

木村 飯尾さんは中日新聞の論説委員として、クジラやマグロ、ごみ問題など環境分野に筆をふるっておられます。私たち人形劇の作り手は“人形劇”で何が描けるか”その独創性を追いかながら、一方でお客様に楽しみを提供しなくてはいけません。その両立が難しい…今日は飯尾さんの筆での取り扱いをバッサリと。

飯尾 文化的な基本は発信者と受信者の共存です。そこから積み重ねていくのです。確かに両者のベクトルは違いますよ。私、長い間オヤジバンド(※1)をやっていましたね。舞台に立つ魅力はお客様が喜ぶ反応だと骨身に感じているんです。ポール・マッカートニーの東京ドーム公演に行きましたが、彼はライブではなくショーと云うんです。私もお客様の楽しみを抜きにしては文化は成立しないと思います。私たちは海外や前衛にはばかり目を向けるのではなく、木村さんたちがやる怪人二十面相しかり、この国の歌舞伎や落語の中にも、母子の子別れとか黙阿弥の小悪党たちとか普遍的なドラマがあるでしょう…そう言う大衆的な伝統をもっと生かすんです。

木村 秋にひまわりホール主催で『乱歩万華鏡』をやります。お説の通り、江戸川乱歩は怪奇幻想というマニアックな世界を描きながら、一方で明智探偵や怪人二十面相を取り入れて大衆化しました。読者が求める物を良く勉強しています。雑誌の出版、下宿館の経営もしていて父親譲りの商才を感じます。

飯尾 亂歩ってほとんどパンですよ。エドガー・アラン・ポーなんかをよく盗んでいます。芸術家にはそういうプロデュース機能、メディア・ミックス、表現の多面性が必要ですね。

木村 飯尾さんの大衆文化論はオヤジバンドの実践があるので本物です。長いあいだ舞台を作っていて、まだ分らないことがあります。これぞという作品を構想を練って豪華出演者でやっても

*注】
※1…バンド名はミートルズ。飯尾さんはリードボーカル担当、ビートルズのコピー得意とする。無名時代の「コブクロ」が前座をやってくれたこともある。

※2…名古屋市の庄内川、新川、日光川が合流する伊勢湾最大の干潟。かつて西1区と呼ばれていた埋め立て予定地だったが、シギ・チドリ・カモなど渡り鳥の飛来地として国指定藤前干潟となりラムサール条約に登録。

木村繁
(NPO法人愛知人形劇センター理事長)

演出家として人形劇・現代演劇の演出をするほか、若手人形劇人の登竜門新人賞のコーディネーター、劇作家とくる短編人形劇などを推進。オブジェクトパフォーマンスカレッジ主任講師、香川県の人形劇学校ハペットアカ校长、バティオ池飼演劇講師などを歴任。演劇賞・戯曲賞の選考委員など若手人形劇人や演劇人の育成に携わってきた。

不発な時がある…。他方、依頼されたあまり得意でない仕事が大ヒットしてロングランになることもある…。舞台芸術とお客様の関係は魔物ですね。あっ、恋愛も同じですか。

飯尾 1999年の名古屋ごみ非常事態宣言をご存知ですか?

木村 えっ、何のこと? いよいよ、本論の環境問題ですね。

飯尾 名古屋市の藤前干潟(※2)の市民大会のことです。

木村 ラムサール条約…渡り鳥の中継地で有名になった?

飯尾 それで藤前干潟が埋立地として使えなくなってしまったので、さあ、この大都市のごみ処理をどうしようというキックオフの大集会だったんですね。ごみの分別を推し進めている地味な集会に市民を集めるのはどうしたらいいか? そうだ、愛知の人は裕福だけど安く貰えるモノも好き、グッズを作ろうと云うことになった。そこで工藤静香に依頼して自筆イラストをあしらったエコバッグを作ったところ、それが話題になって3000人もの市民がゴミの分別集会に集まつたんです。

木村 へえ、一般市民がですか。

飯尾 これ、実は担当の職員が工藤静香の熱心なファンで、“好きなタレントに会いたい”一心から事務所に電話をかけて…結局3000人も集まつたんです。人の心を動かすのは何か…計算のできない、偶然性というか、貴重な経験です。

木村 文化は計算できない! その職員さんは、自分の欲望で仕事をして、結果市民も喜んでくれた。いい上司もいたんでしょうね。かかわる人の人間性が左右します。

飯尾 偶然性ですよ、計算しきたらつまらない。浮世絵も美術品ではなく、陶器の包み紙として西洋に伝わったんですからね。皆さん的人形劇場も後世になって、損保ジャパン日本興亜が人形劇を援助したのではなく、人形劇の劇場を作って儲けたなどと言われたいですね。

*注】
※2…名古屋市の庄内川、新川、日光川が合流する伊勢湾最大の干潟。かつて西1区と呼ばれていた埋め立て予定地だったが、シギ・チドリ・カモなど渡り鳥の飛来地として国指定藤前干潟となりラムサール条約に登録。

REPORT

人形劇の旅 ~小児病棟を訪ねるパペットミニキャラバン~

入院して外出する機会のない子どもたちを対象に、病院を訪問して人形劇を観てもらう“パペットミニキャラバン”的活動を取材するため、愛知県大府市のあいち健康の森公園に隣接する「あいち小児保健医療総合センター」を訪ねた。

この活動を始めたきっかけは? 2007年に複数のアマチュア劇団メンバー有志が集まり、愛知人形劇センターの支援を受けて、合同作品を作成・上演しました。上演が終わった後も「外出が難しい小児病棟の子どもたちに、楽しく夢のある人形劇を届けよう」という企画が提案されました。メンバーの中に元看護士がいて、受け入れてくれる病院を探し、ここ「あいち小児保健医療総合センター」に決まりました。2008年4月から活動をスタートし、毎年5回くらい2~3ヶ月に1回上演を続けています。現在は17人のメンバーのうち都合のつく人が集まって、5つある病棟を、午前1病棟、午後1病棟、順番に1時間ほどの上演をしています。作品は個々のメンバーの独自作品と合同であります。合同作品は4本あり、参加メンバーを見て、朝集合してから1時間ほど練習して本番を迎えます。今日は6名の参加で「ドレミの歌」を上演しました。合同作品はぎやかで好評です。

愛知人形劇センター・広報部長 杉原高行

特定非営利活動法人
愛知人形劇センター
〒460-8551 名古屋市中区丸の内3-22-21
損保ジャパン日本興亜名古屋ビル8F
TEL&FAX 052-212-7229
<http://aichi-puppet.net/apc/>
MAIL:mail@aichi-puppet.net

Aichi Puppetry Center あっぷ

ひまわりホールから
発信する
シアター情報誌

忘れられない夏がくる

人形劇団むすび座「父と暮せば」(作:井上ひさし、演出:木村繁)